

## 今回のおはなし



「服薬中の飲酒は要相談」

「副流煙とは？」



# 服薬中の飲酒は要相談

新型コロナウイルスに感染した際、解熱鎮痛剤として「カロナール」という錠剤が処方されることがよくあります。解説書の注意事項を読むと、「飲酒の習慣のある方は、服用期間中お酒は避けて下さい」とあります。

## なぜ、飲酒がいけないのでしょうか？

カロナールの含まれる「アセトアミノフェン」は、肝臓で代謝されるお薬で、肝臓に負担がかかります。薬と一緒にアルコールを飲むと、肝臓の負担がさらに大きくなり、大量に飲んだ状態では、重篤な肝障害を起こす可能性が上がります。

睡眠薬もお酒と同様に摂取すると、眠りの質が悪くなり、ふらつきや転倒、服用後の行動を忘れるなどの副作用が増強され、相性が悪いです。

「どのような薬でも、主に中性のお水を飲んだ状態で、さまざまなデータがとられており、アルコールを飲んだ場合に、どのような影響が生じるかはわかりません。そのため、基本的に薬は水で服用し、服薬期間中の飲酒については、主治医や薬剤師に十分ご相談下さい。

薬との飲み合わせで気を付けたいのは、お酒だけではなくありません。意外な食べ物や飲み物が薬の効果を妨げることもあります。

例えば、血圧を下げる薬である「カルシウム拮抗薬」や免疫抑制剤などを服用している人は、グレープフルーツを食べたり、ジュースにして飲んだりしないようにして下さい。グレープフルーツに含まれるフラノクマリンという成分が薬の代謝効果を阻害し、効果が強く出てしまいます。同じ柑橘(かんきつ)類でも、レモンやみかんは食べても特に問題はありません。

血液をサラサラにする「ワーファリン」という薬は、納豆と相性が悪いです。納豆に多く含まれるビタミンKが作用を弱めてしまうため、他に健康食品としておなじみのクロレラや青汁も摂取が禁止されています。ビタミンKは、緑黄色野菜にも含まれていますが、納豆と比べると少なく、一次的に大量に摂取しなければ大丈夫です。

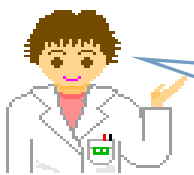
飲み物では、牛乳が一部の抗菌薬や骨粗しょう症治療薬であるビスホスホネート製剤の効果を弱めてしまうことが知られています。牛乳に含まれるカルシウムが薬の成分と結合することで、体内に吸収されなくなるからで、同時服用だけでなく、牛乳を飲んでから2~3時間は服用を避けて下さい。他にも、気管支拡張剤であるテオフィリン系薬剤は、コーヒーや紅茶などのカフェイン含有物によって薬の分解が阻害されることで、頭痛や動悸を起こす可能性があります。こうした気になる飲み合わせを、すぐ相談できる「かかりつけ薬局」「かかりつけ薬剤師」を持っておくと良いでしょう。

## 副流煙とは？

たばこを吸う際に発生する煙のうち、たばこの先端の燃焼部分から立ち上る煙のこと

たばこの煙は、喫煙者の口を通して吸い込まれるものを主流煙と呼び、先端の点火部分から立ち上る煙を副流煙と呼びます。副流煙に含まれる化学物質は、主流煙に含まれる成分とほぼ同じですが、主流煙よりも多くの有害化学物質を含むことがわかっています。

喫煙者が紙巻たばこ1本を吸った際には、その30～40%が主流煙となるのに対し、50～60%は副流煙の発生源となります。また、一般的に副流煙は発生直後から環境中の空気で希釈されるため、主流煙をすべて吸い込む喫煙者と受動喫煙者を比べると、受動喫煙者のほうが有害性が低くなると考えられます。しかし、空間の狭い車両中などでは副流煙の曝露量が多くなるなど、受動喫煙の健康影響は環境によって大きく変化します。



季節の変わり目、体調には十分気を付けて下さい。

### (一社) 浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812 (月～金：10～15時)

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku\_ura\_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>